
男女共同参画に関する
市民の意識及び実態調査
報告書

ダイジェスト版

~~~~~ 目次 ~~~~~

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 調査概要 .....                      | 1  |
| 1 男女共同参画に関する意識について .....        | 2  |
| 2 家庭生活と教育・結婚観について .....         | 6  |
| 3 就業について .....                  | 10 |
| 4 人権について .....                  | 13 |
| 5 山形市の男女共同参画の推進に関する施策について ..... | 15 |

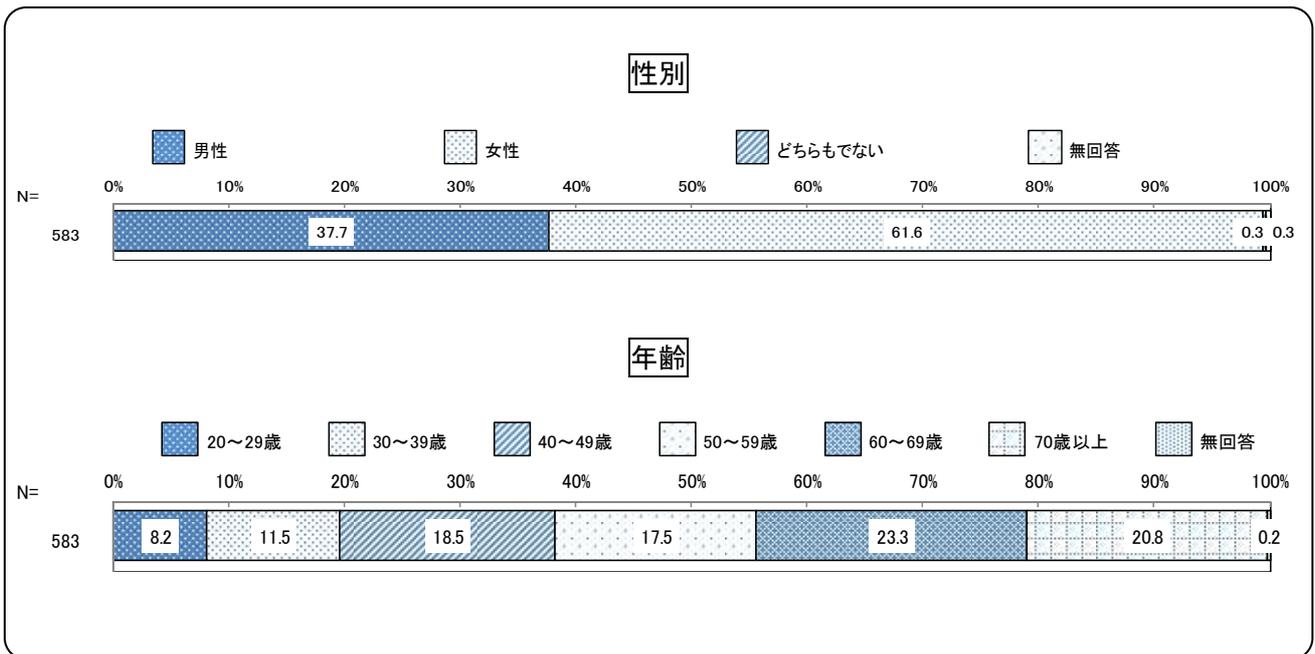
令和元年 12月  
山形市

# 調査概要

## 1 調査概要

- ◆調査の目的 山形市の男女共同参画に関する市民の意識・実態・要望を把握し、男女共同参画社会の実現を目指した政策を総合的に推進するため、令和3年度からの第4次男女共同参画計画策定の基礎資料を得ることを目的とした。
- ◆調査対象 山形市内に居住する20歳以上の男女2,000人（無作為抽出）
- ◆調査方法 郵送配布－郵送回収（督促はがき1回）
- ◆調査期間 令和元年7月29日～8月19日
- ◆調査基準日 令和元年8月1日
- ◆回収結果 全体 583人（有効回収率：29.2%）  
女性 359人（有効回収率：35.9%）  
男性 220人（有効回収率：22.0%）  
どちらでもない2人 無回答 2人

## 2 回答者の属性（性別・年齢）

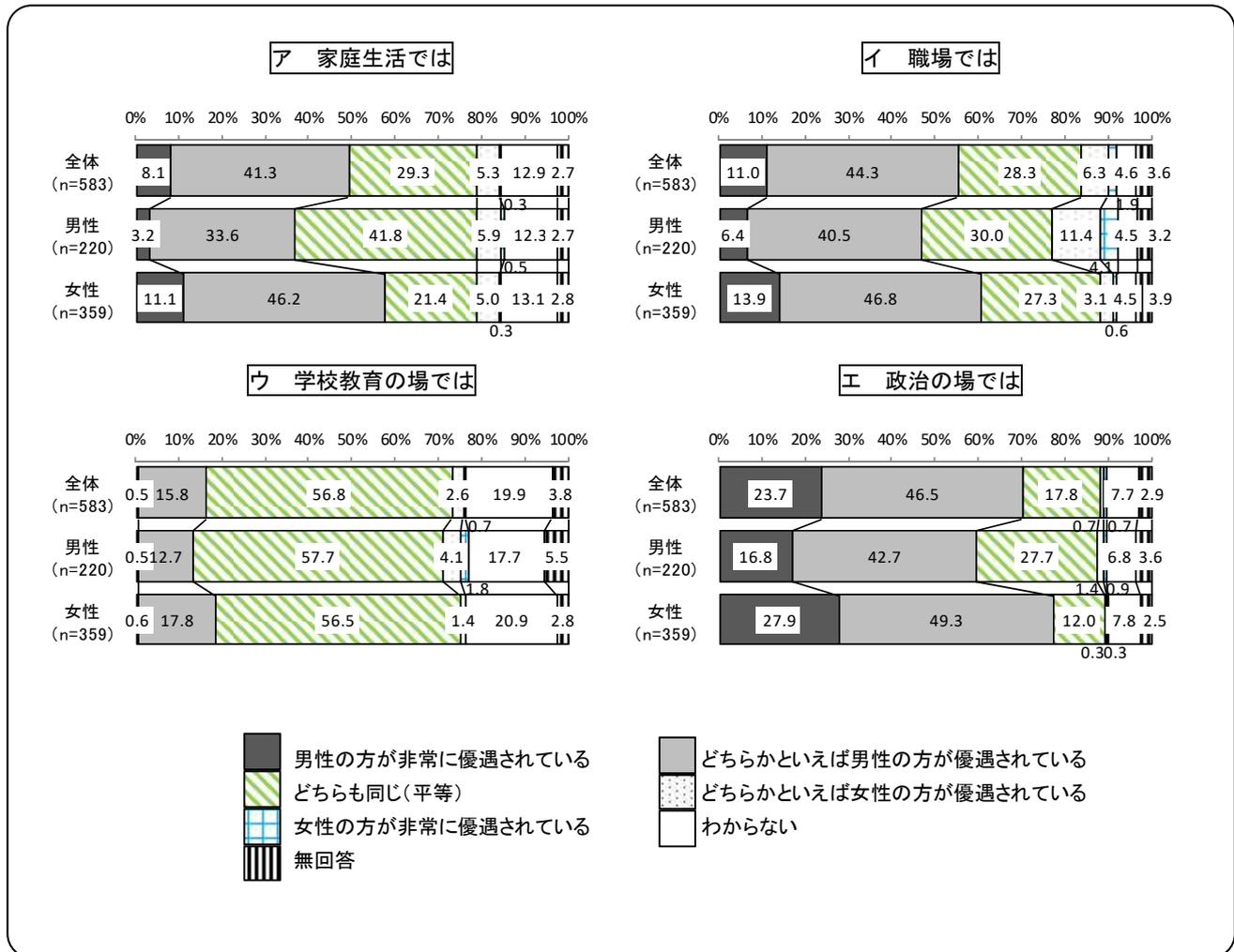


# 1 男女共同参画に関する意識について

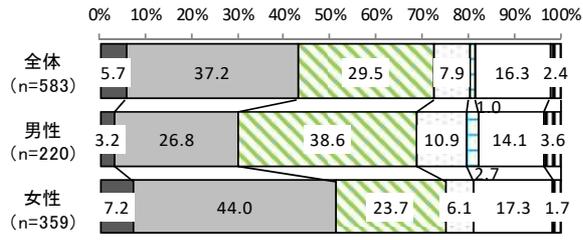
## 1 分野別男女平等評価

8つの側面から分野別男女平等評価についてたずねた。全体では、【学校教育の場】で「どちらも同じ」との評価が56.8%と高くなっている。

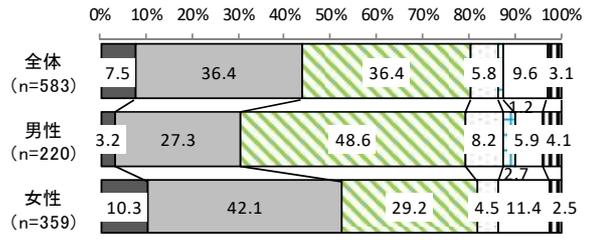
一方、【学校教育の場】を除く、すべての分野で『男性優遇』は「どちらも同じ(平等)」より高く、【社会通念や慣習・しきたり】(77.7%)をはじめ、【社会全体】(72.4%)や【政治の場】(70.2%)などで7割以上と特に高くなっており、いずれの分野でも、『女性優遇』(=「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)は少数派である。



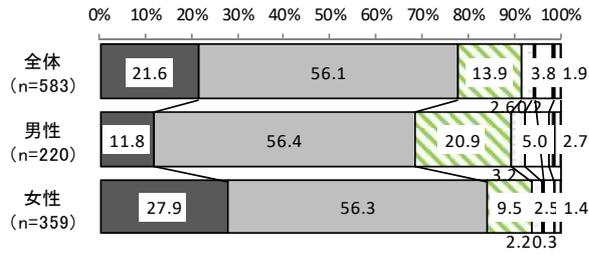
オ 社会活動の場では



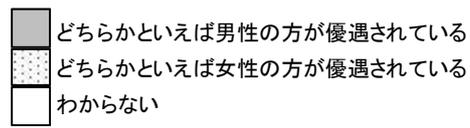
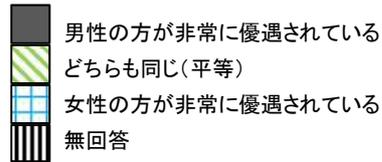
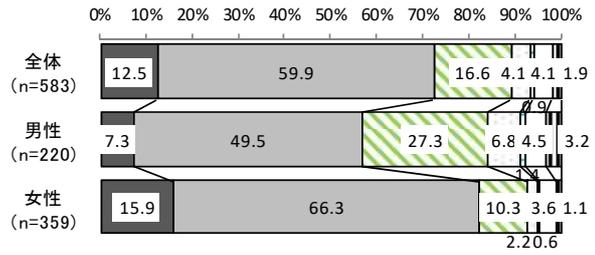
カ 法律や制度では



キ 社会通念や慣習しきたりでは



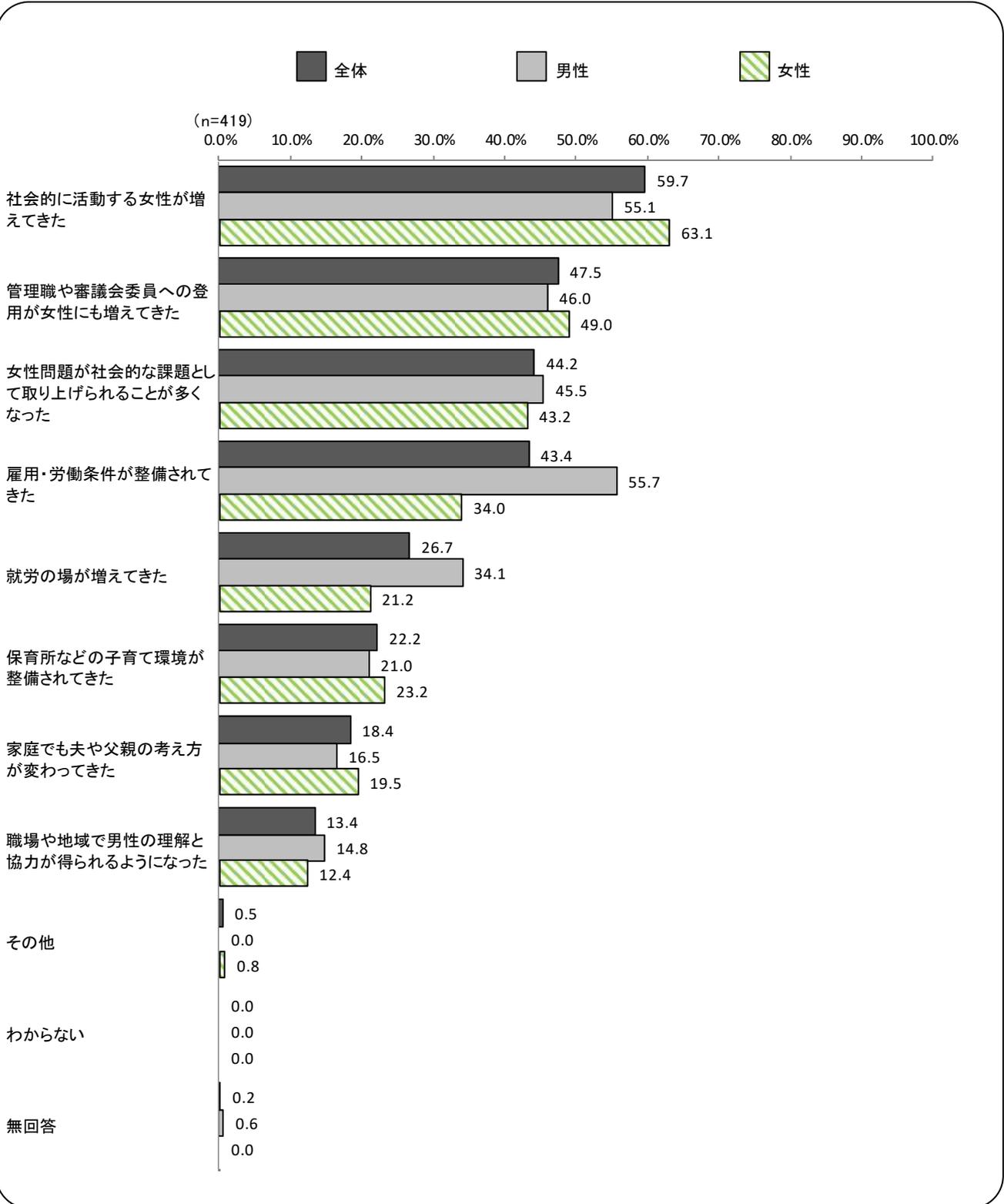
ク 社会全体では



## 2 女性の社会的な立場が向上したと思われること

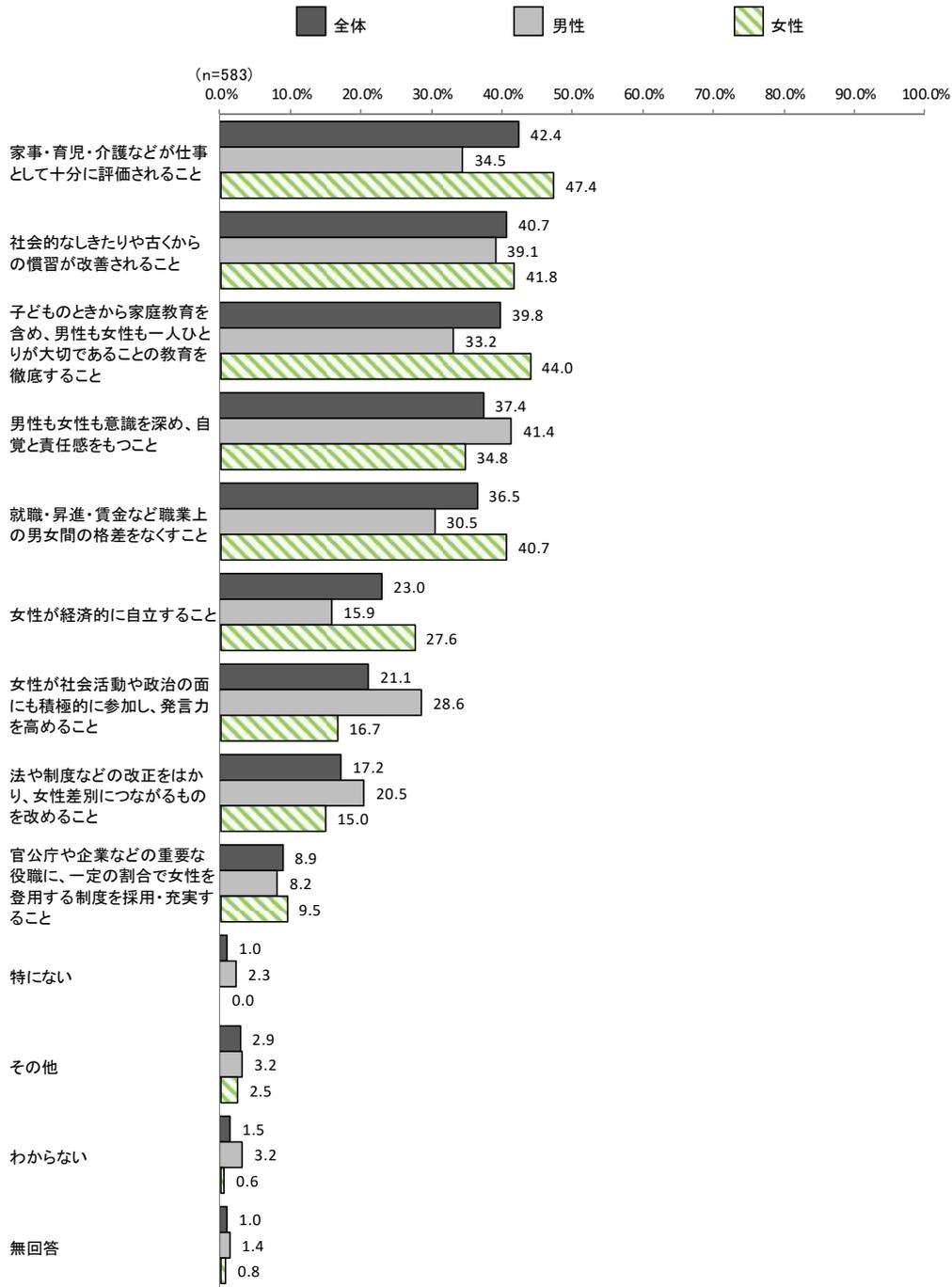
女性の社会的な立場が向上したと思われることについてたずねた。全体では、「社会的に活動する女性が増えてきた」が59.7%で最も高く、以下「管理職や審議会委員への登用が女性にも増えてきた」が47.5%、「女性問題が社会的な課題として取り上げられることが多くなった」が44.2%、「雇用・労働条件が整備されてきた」が43.4%と続いている。

性別にみると、「雇用・労働条件が整備されてきた」（男性:55.7% 女性:34.0%）や「就労の場が増えてきた」（男性:34.1% 女性:21.2%）において、男性より女性が10ポイント以上低くなっている。



### 3 男女が社会のあらゆる分野に参画していくために重要なこと

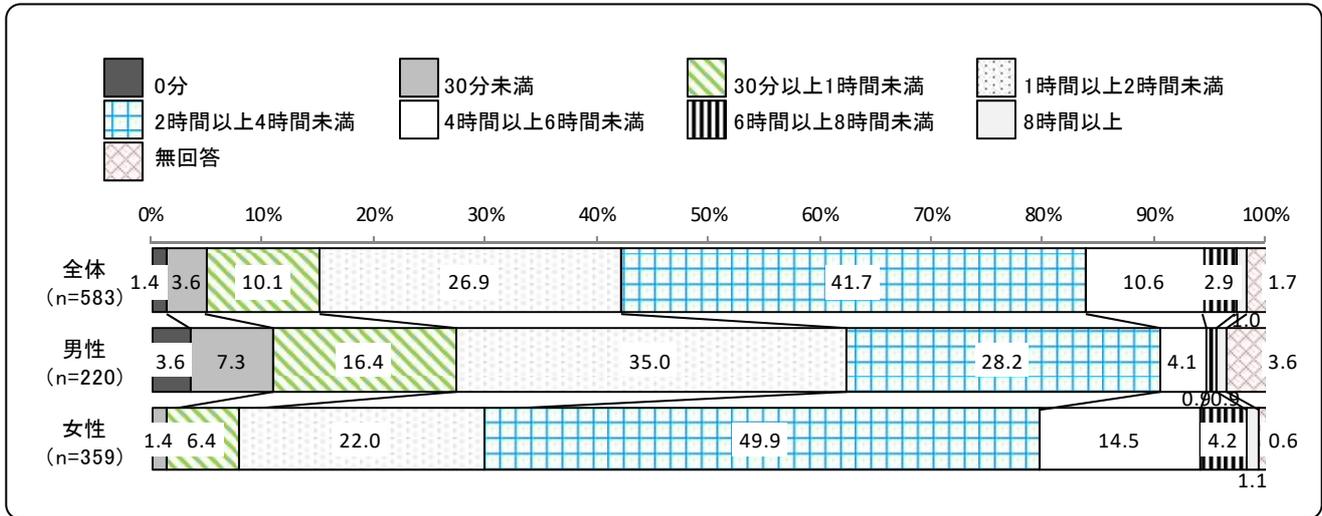
今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくために重要なことについてたずねた。全体では、「家事・育児・介護などが仕事として十分に評価されること」が42.4%と最も高く、以下「社会的なしきたりや古くからの慣習が改善されること」が40.7%、「子どものときから家庭教育を含め、男性も女性も一人ひとりが大切であることの教育を徹底すること」が39.8%と続いている。また、その他の選択肢にも回答は比較的分散している。



# 2 家庭生活と教育・結婚観について

## 1 生活時間分類

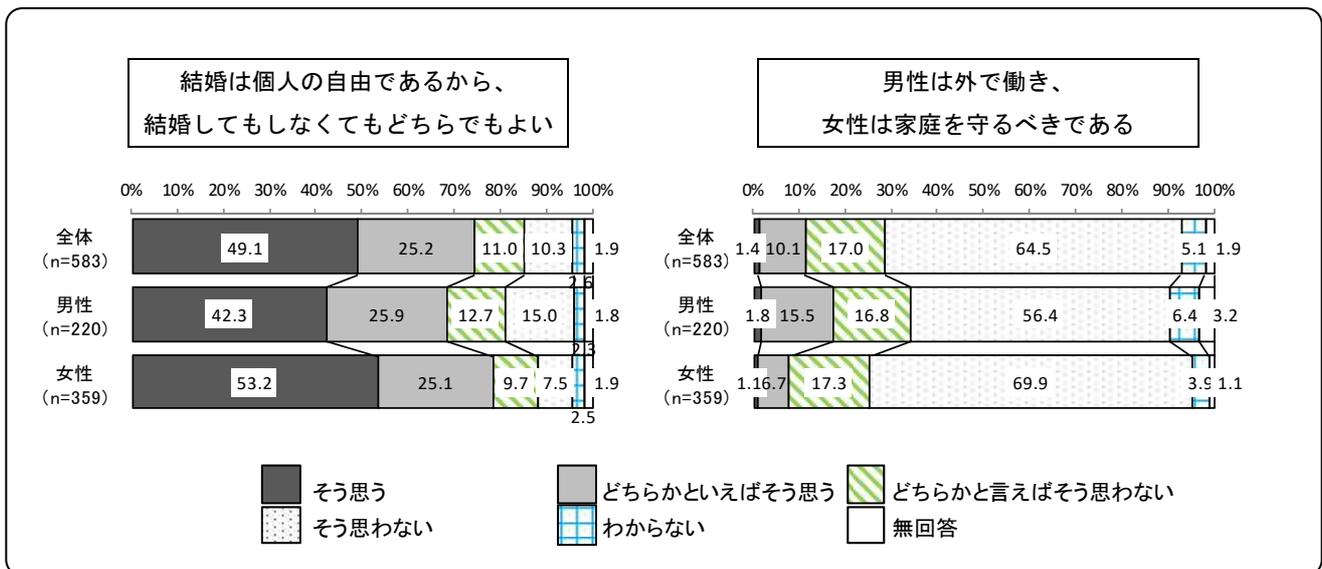
生活時間分類のうち、家事に使う時間についてたずねた。全体では、「2時間以上4時間未満」が41.7%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」(26.9%)、「4時間以上6時間未満」(10.6%)となっている。



## 2 結婚や家庭に関する考え

結婚や家庭に関する考えについてたずねた。【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】では、「そう思う」が49.1%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」(25.2%)と合わせた『賛成』が74.3%を占めている。なお、「どちらかといえばそう思わない」(11.0%)と「そう思わない」(10.3%)を合わせた『反対』は21.3%となっている。

【男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである】では、「そう思わない」が64.5%と高く、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と合わせた『反対』が81.5%を占めている。「どちらかといえばそう思う」(10.1%)と「そう思う」(1.4%)を合わせた『賛成』は11.5%となっている。



### 3 子どものしつけや教育に対する考え

6つの側面から子どものしつけや教育に対する考えについてたずねた。【女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい】では、「そう思う」が65.5%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」(28.0%)と合わせた『賛成』が93.5%を占めている。なお、「どちらかといえばそう思わない」は2.4%、「そう思わない」は0.0%となっている。

【女の子は浪人してまでも大学へ行く必要はない】では、「そう思わない」が56.9%と最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(20.6%)と合わせた『反対』は77.5%となっている。なお、「どちらかといえばそう思う」(9.4%)と「そう思う」(2.9%)を合わせた『賛成』は12.3%となっている。

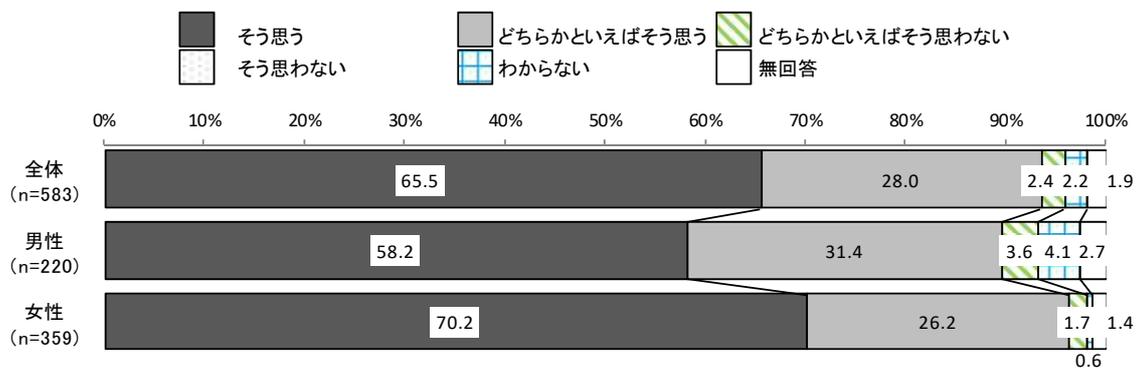
【男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身に付けさせる方がよい】では、「そう思う」が66.0%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」(30.0%)と合わせた『賛成』が96.0%を占めている。なお、「どちらかといえばそう思わない」(0.9%)と「そう思わない」(0.5%)を合わせた『反対』は1.4%にとどまっている。

【進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい】では、「そう思う」が71.5%と高く、「どちらかといえばそう思う」(18.5%)と合わせた『賛成』が90.0%を占めている。なお、「どちらかといえばそう思わない」(1.7%)と「そう思わない」(1.5%)を合わせた『反対』は3.2%にとどまっている。

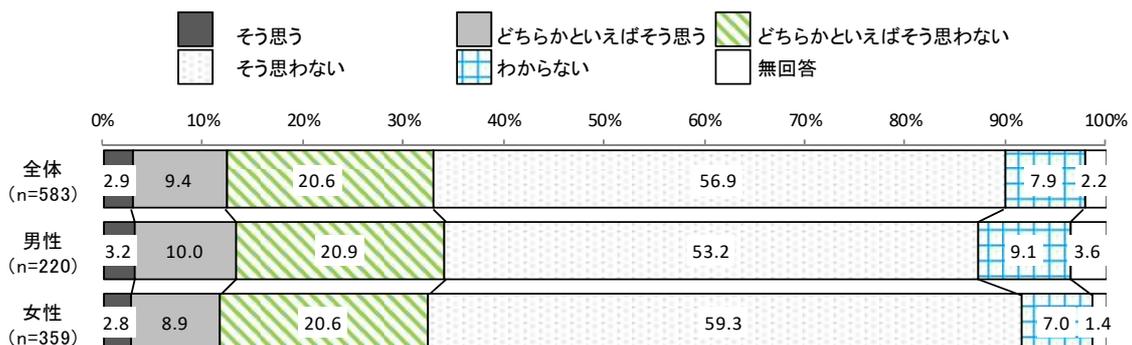
【学校では、出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし、男女混合に変える方がよい】では、「そう思う」が32.1%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」(19.4%)と合わせた『賛成』は51.5%となっている。なお、「そう思わない」(13.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.7%)を合わせた『反対』が26.4%となっている。

【家庭で子どもをしつける場合「男だからこうしなさい」とか「女だからこうしなさい」と性別によりしつけるべきである】では、「そう思わない」が50.6%と最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(19.2%)と合わせた『反対』が69.8%となっている。なお、「どちらかといえばそう思う」(17.0%)と「そう思う」(5.0%)を合わせた『賛成』は22.0%となっている。

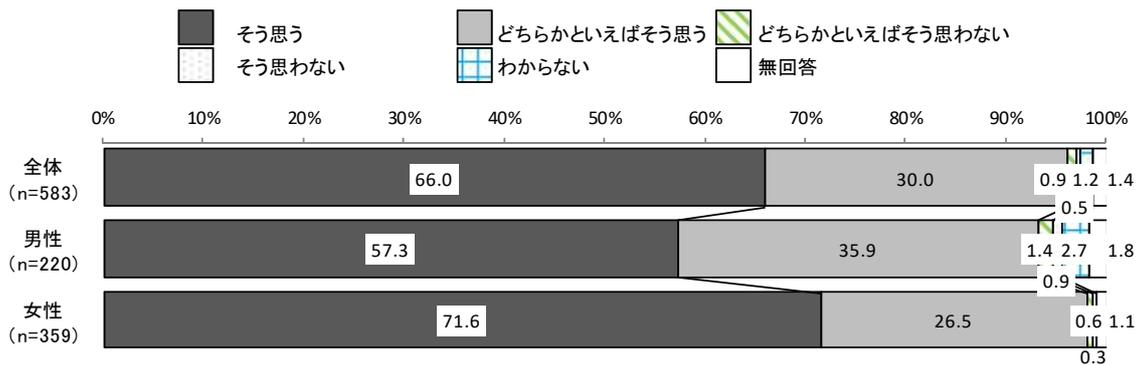
女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい



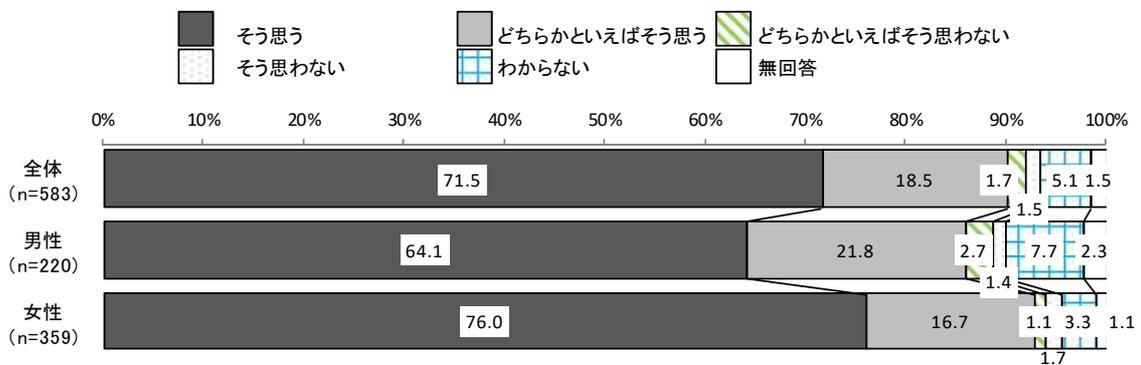
女の子は浪人してまでも大学へ行く必要はない



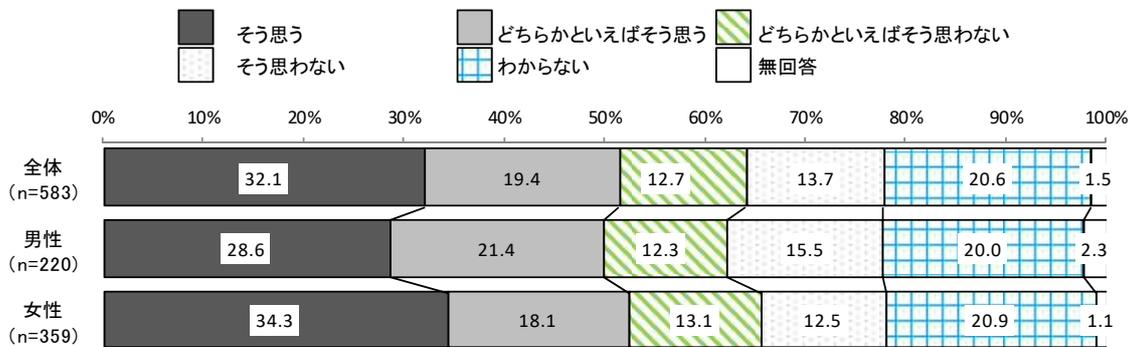
男子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身に付けさせる方がよい



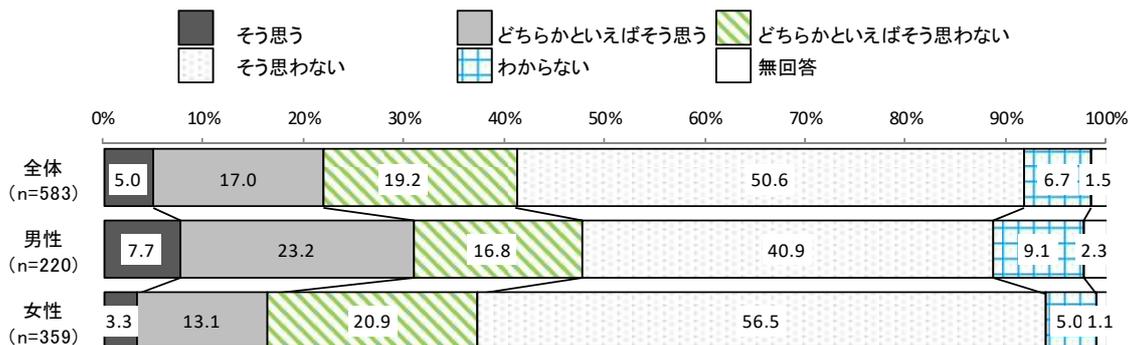
進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい



学校では、出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし、男女混合に変える方がよい



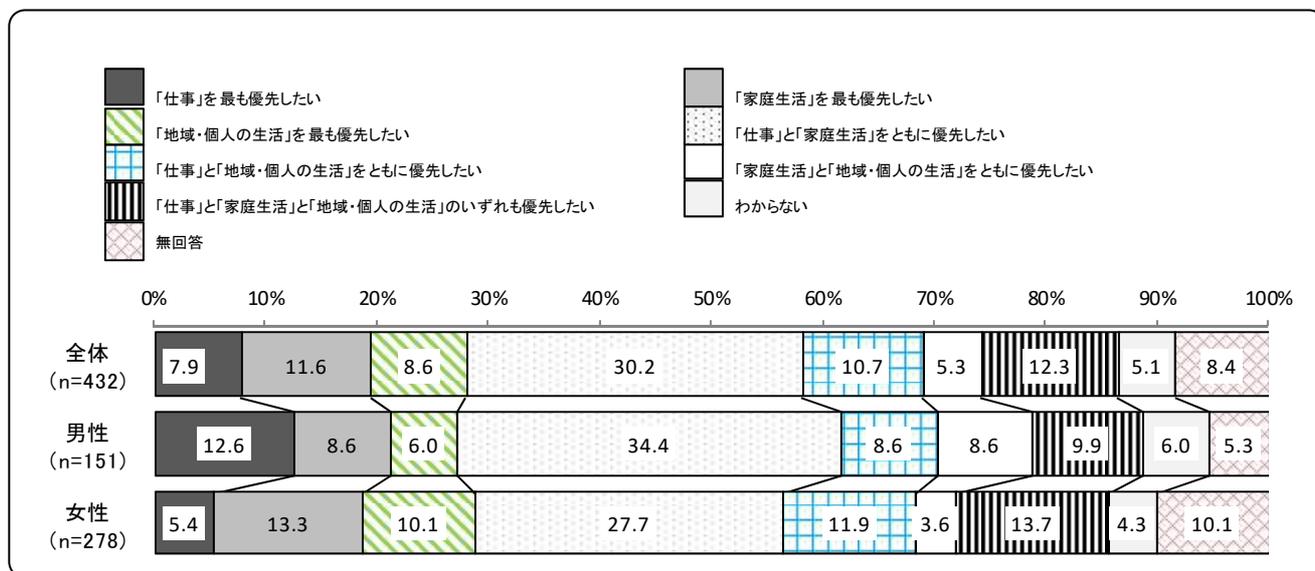
家庭で子どもをしつける場合「男だからこうしなさい」とか「女だからこうしなさい」と性別によりしつけるべきである



#### 4 理想的な仕事と家庭や地域活動のかかわり方

理想的な仕事と家庭や地域活動のかかわり方についてたずねた。全体では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が30.2%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のいずれも優先したい』が12.3%、『「家庭生活」を最も優先したい』が11.6%となっている。

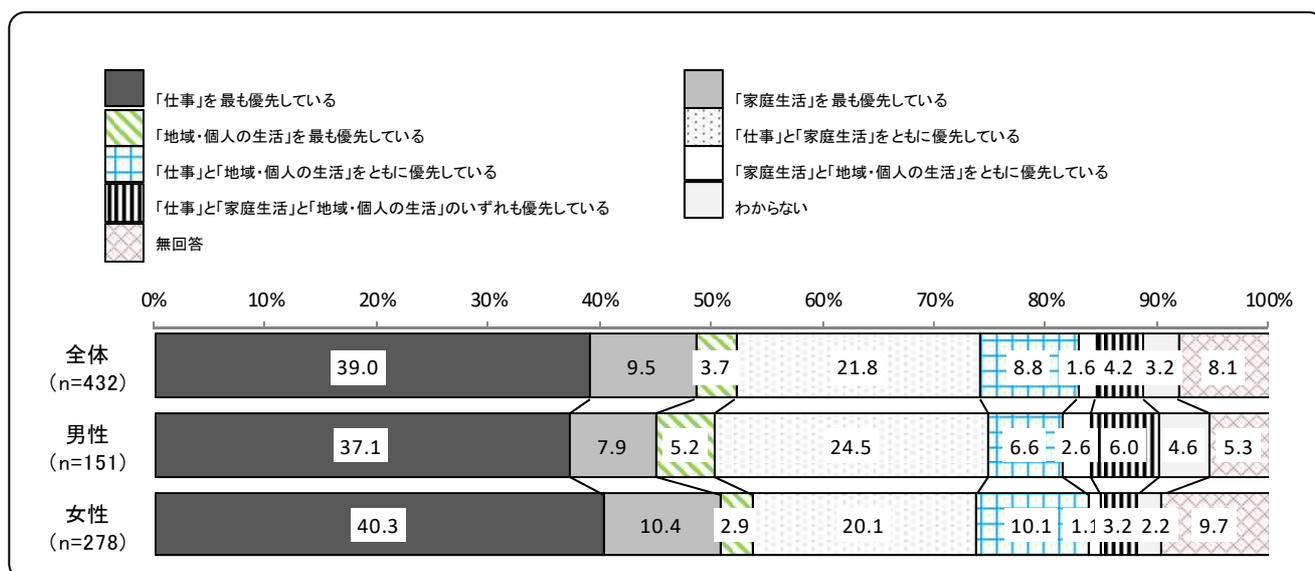
性別にみると、『「仕事」を最も優先したい』(男性:12.6% 女性:5.4%)は、男性が女性より7.2ポイント高くなっている。



#### 5 現実の仕事と家庭や地域活動のかかわり方

現実の仕事と家庭や地域活動のかかわり方についてたずねた。全体では、『「仕事」を最も優先している』が39.0%と高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が21.8%、『「家庭生活」を最も優先している』が9.5%となっている。

性別にみると、『「仕事」を最も優先している』(男性:37.1% 女性:40.3%)は、女性が男性よりやや高くなっている。

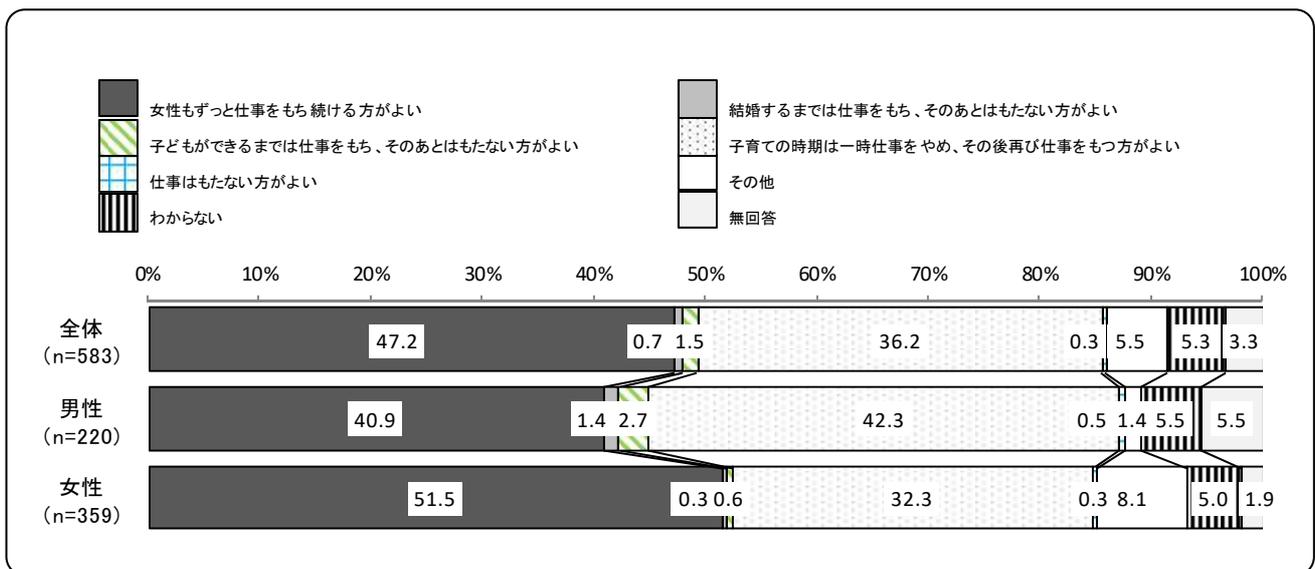


# 3 就業について

## 1 女性と職業のかかわり方

女性と職業のかかわり方についてたずねた。全体では、「女性もずっと仕事をもち続ける方がよい」が47.2%と高く、次いで「子育ての時期は一時仕事をやめ、その後再び仕事をもつ方がよい」が36.2%となっており、上位の2項目で83.4%を占めている。

性別にみると、男性では「子育ての時期は一時仕事をやめ、その後再び仕事をもつ方がよい」が42.3%と最も高く、女性（32.3%）より10.0ポイント高くなっている。一方、「女性もずっと仕事をもち続ける方がよい」（男性:40.9% 女性:51.5%）は女性が男性より10.6ポイント高くなっている。



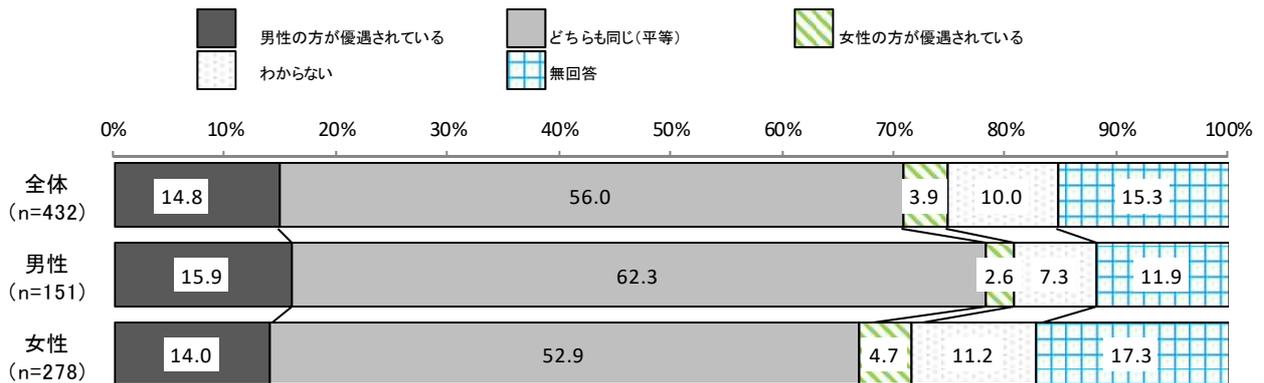
## 2 職場で男女の格差があると思う点

現在働いている人に、職場で男女の格差があると思う点についてたずねた。【募集・採用】では、「どちらも同じ（平等）」が56.0%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が14.8%となっている。なお、「女性の方が優遇されている」は3.9%となっている。

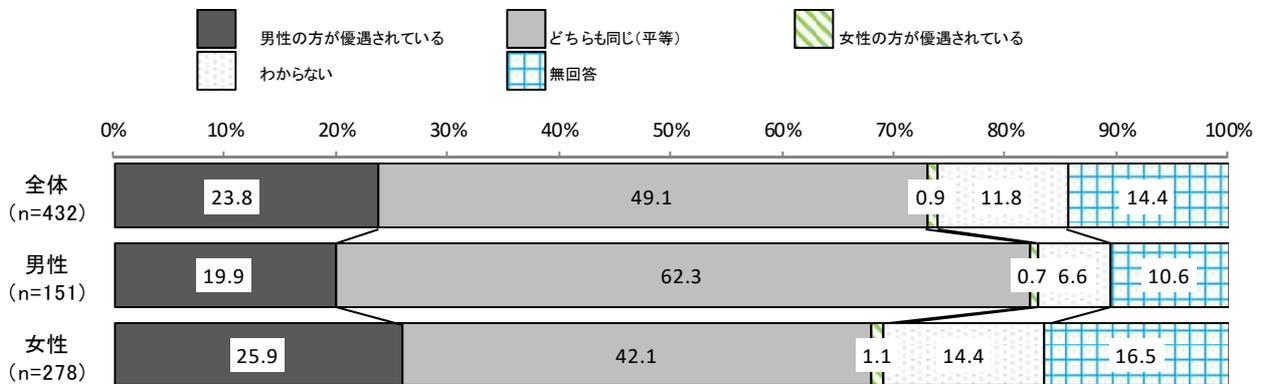
【賃金】では、「どちらも同じ（平等）」が49.1%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が23.8%となっている。なお、「女性の方が優遇されている」は0.9%となっている。

【昇進や昇格】では、「どちらも同じ（平等）」が37.3%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が31.3%となっている。なお、「女性の方が優遇されている」は1.4%となっている。

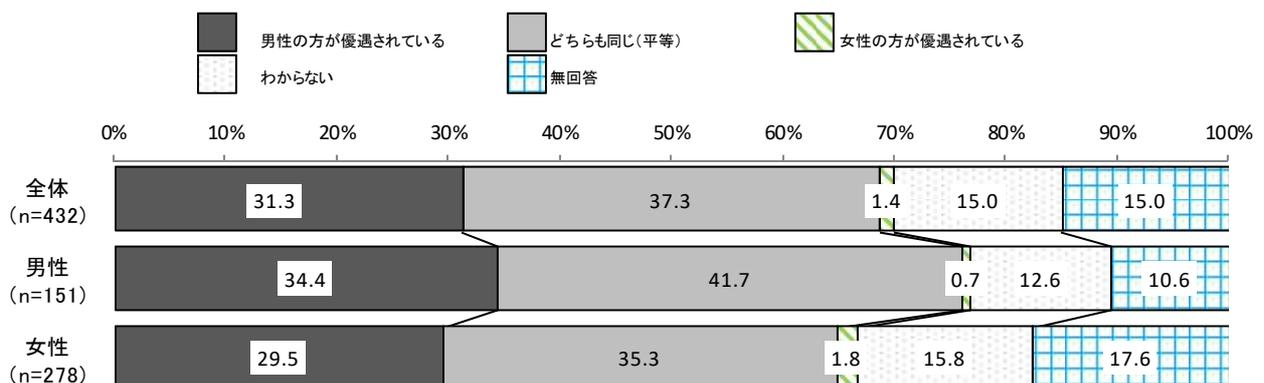
募集・採用



賃金



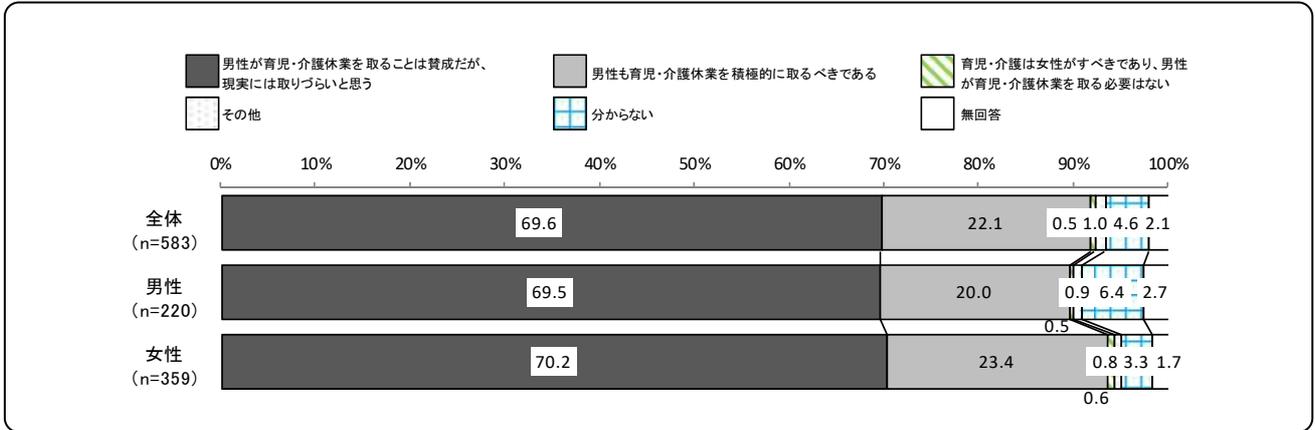
昇進や昇格



### 3 男性が育児休業・介護休業を取得することについて

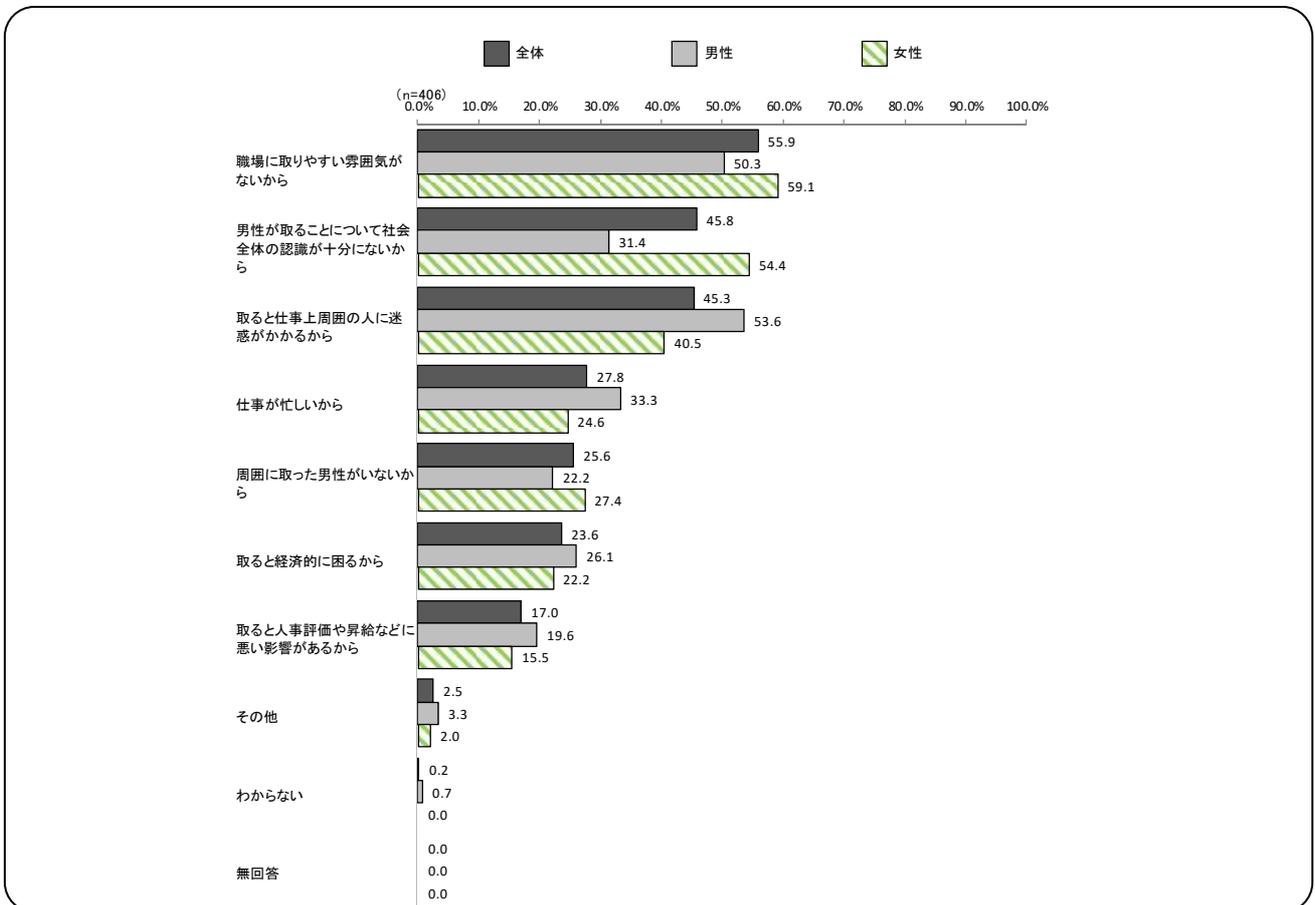
男性が育児休業・介護休業を取得することについてたずねた。全体では、「男性が育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が69.6%と高く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」が22.1%となっている。

性別にみると、男女の間に大きな差はないが、「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」(男性:20.0% 女性:23.4%)は女性が男性を3.4ポイント上回っている。



### 4 男性が育児休業・介護休業を取得することが難しいと思う理由

「男性が育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」と回答した方(406人)に、その理由をたずねたところ、全体では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が55.9%と最も高く、次いで「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから」が45.8%、「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」が45.3%となっている。



# 4 人権について

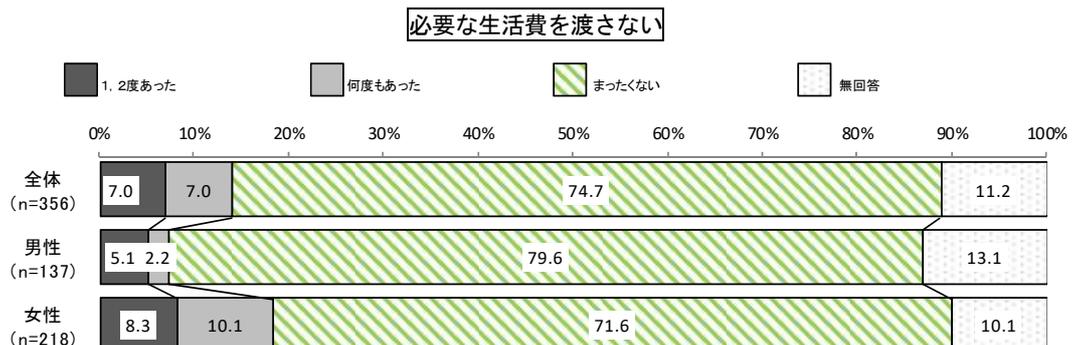
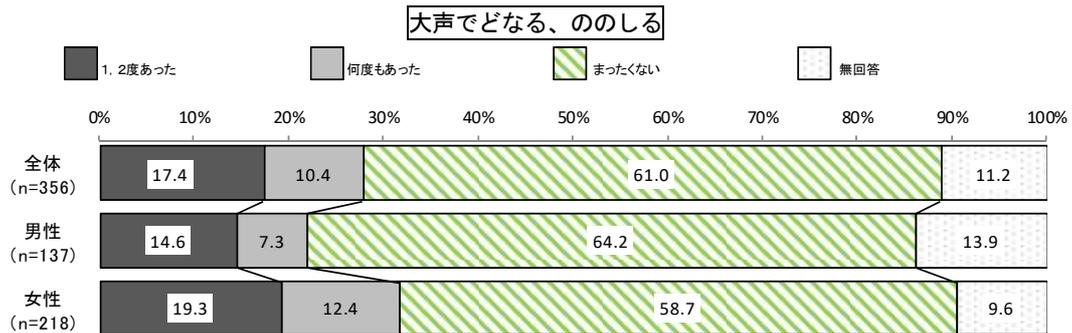
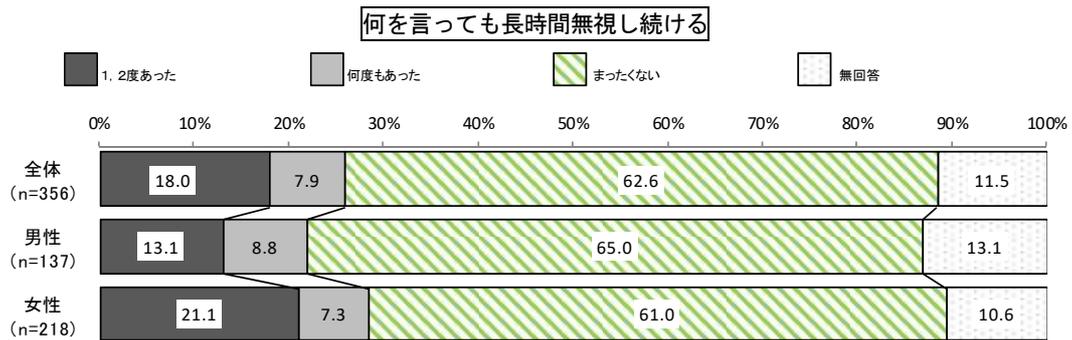
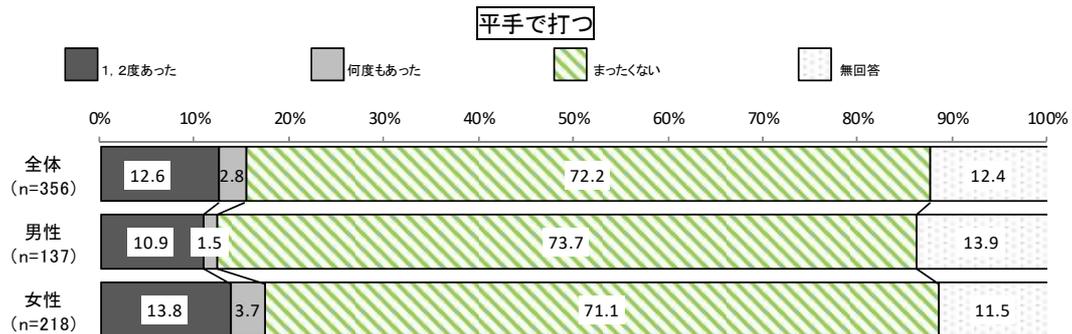
## 1 配偶者からの被害経験

配偶者からの暴力の被害経験についてたずねた。【平手で打つ】では、「まったくない」が72.2%、「1、2度あった」が12.6%、「何度もあった」が2.8%となっている。

【何を言っても長時間無視し続ける】では、「まったくない」が62.6%、「1、2度あった」が18.0%、「何度もあった」が7.9%となっている。

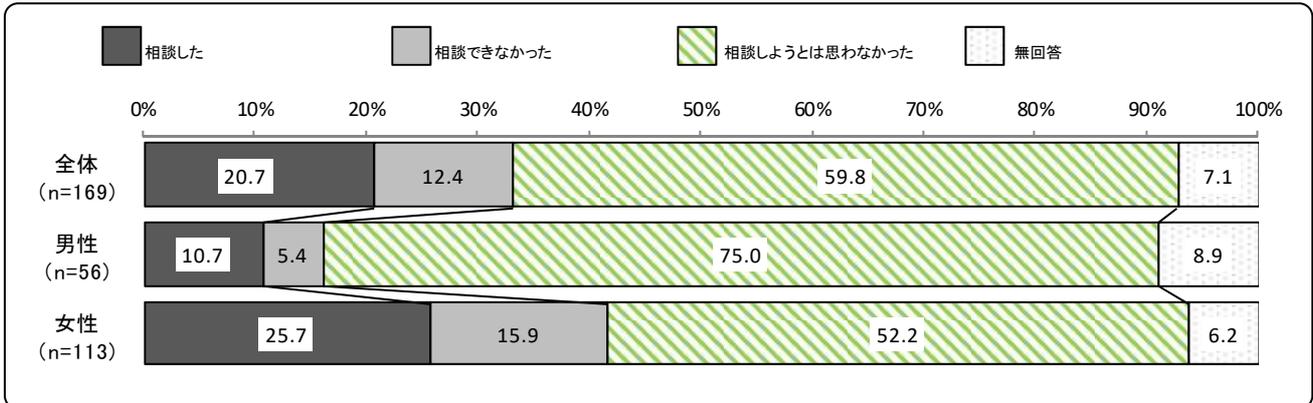
【大声でどなる、ののしる】では、「まったくない」が61.0%、「1、2度あった」が17.4%、「何度もあった」が10.4%となっている。

【必要な生活費を渡さない】では、「まったくない」が74.7%、「1、2度あった」が7.0%、「何度もあった」が7.0%となっている。



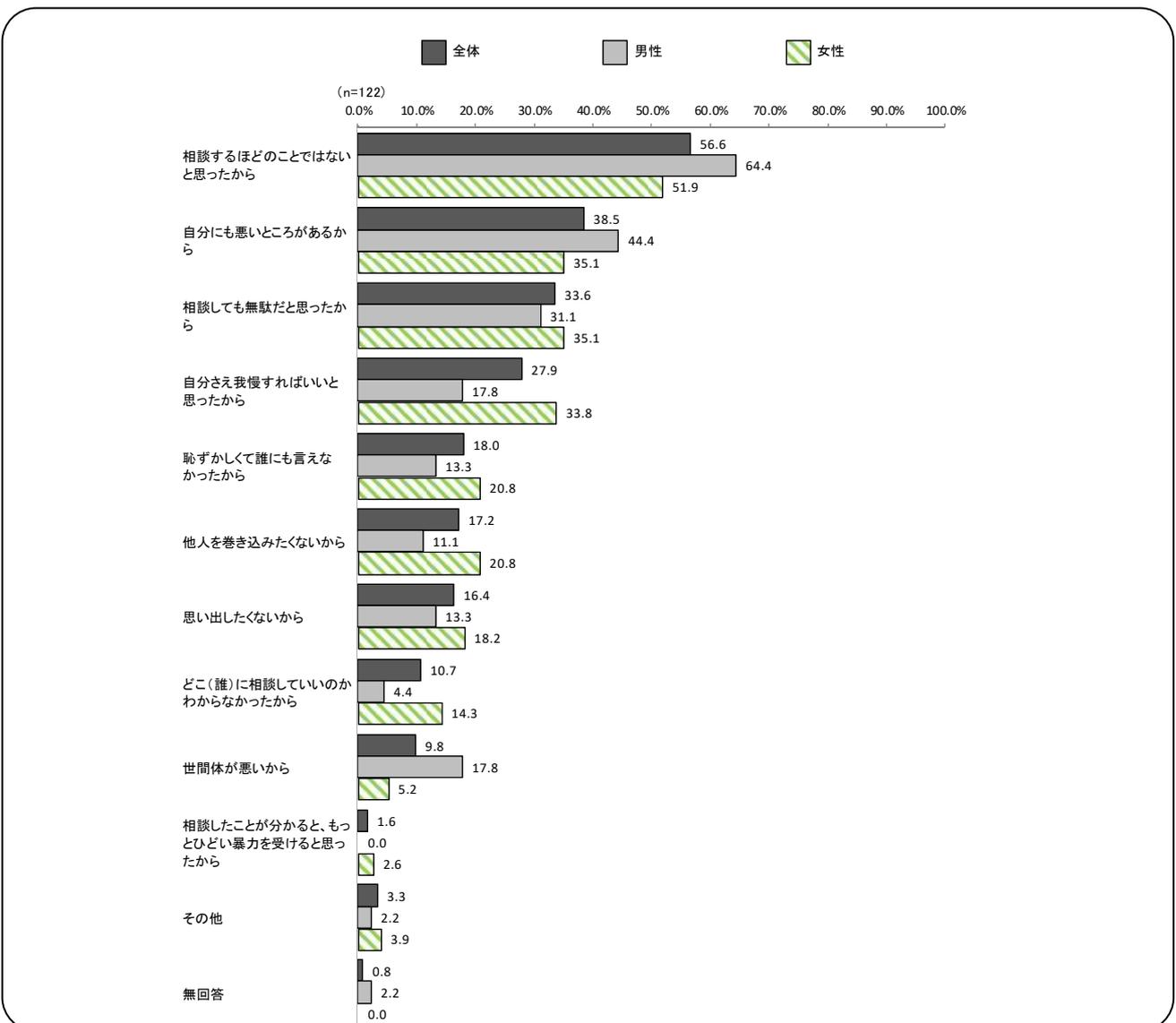
## 2 配偶者からの被害の相談状況

配偶者からの被害の相談状況についてたずねた。全体では、「相談しようとは思わなかった」が59.8%と最も高く、次いで「相談した」が20.7%、「相談できなかった」が12.4%となっている。



## 3 相談しなかった理由

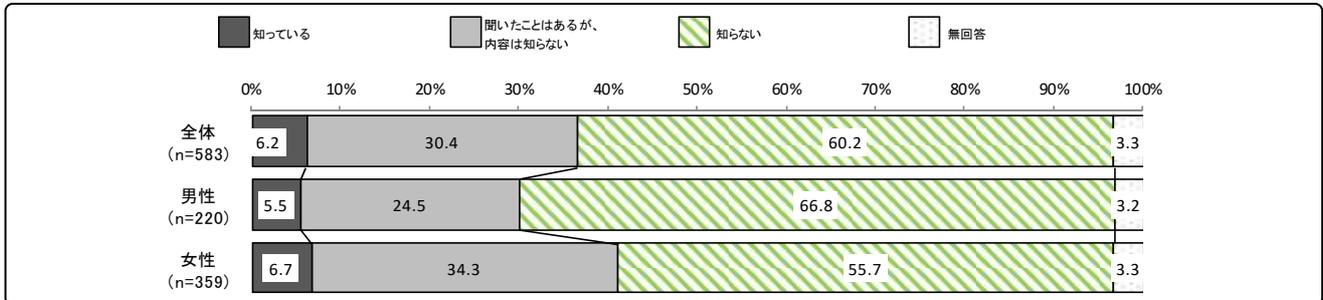
相談しなかった理由についてたずねた。全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が56.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあるから」が38.5%、「相談しても無駄だと思ったから」が33.6%、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」が27.9%と続いている。



# 5 山形市の男女共同参画の推進に関する施策について

## 1 第3次「いきいき山形男女共同参画プラン」の認知状況

第3次「いきいき山形男女共同参画プラン」の認知状況についてたずねた。全体では、「知らない」が60.2%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が30.4%、「知っている」が6.2%となっている。



## 2 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れるべきこと

「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れるべきことについてたずねた。全体では、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職に向けた学びを支援する」が42.0%と最も高く、以下「学校における男女平等教育を推進する」(33.1%)、「講座や講演会など、男女共同参画について学ぶ機会を増やす」(27.3%)、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」(22.6%)と続いている。

